

在宅医療ケア部会 会議録 (令和元年度 第4回)

1. 日 時 令和元年12月17日(火) 18時～19時半

2. 場 所 飯塚市役所 2階 多目的室

3. 出席者(順不同/敬称略)

【飯塚病院】大矢崇志、田中祥一朗

【嘉穂鞍手保健福祉環境事務所】岩井咲姫【嘉麻市子育て支援課発達相談支援係】藤井みはる

【飯塚市健幸スポーツ課保健センター係】藤田奈緒【桂川町健康福祉課健康推進係】樋口智絵

【多機能型児童発達支援事業所ひばり】廣瀬竜也、福田千代

【児童発達支援センターこどもの森・多機能型児童発達支援事業所森の子】許斐孝史

【機能強化事業ピース】毛利あすか【飯塚市】梶原あゆみ 伊佐恵【嘉麻市】福田津紀正

【桂川町】川野寛明【基幹相談支援センター】藤嶋勇治、小出悦子、彦田純子

4. 概 要

1) 災害部門より

災害対策部門では令和元年10月21日に、①災害発生時に地域の医療機関へ当事者が駆け込むことが考えられるため、その際に協力いただけないかと言う協力依頼方法についてと、②個別避難計画書の重要性やどのように作成していくべきかといった内容について、飯塚市防災安全課と意見交換を行った。

<地域の医療機関への協力依頼について>

■筑豊小児科医会と協働

- ・飯塚医師会(理事)肘井先生が窓口
- ・2市1町と連携
- ・稲築病院の自家発電は2時間(⇒更に情報収集予定)
- ・消防とも協議(基幹センターにて問い合わせる)
- ・受け入れる医療機関もキャパについて悩むところ

■ひばりより情報提供

- ・プロパンガスの発電機を利用(約20万円)
- ・劣化しにくい ガソリンよりも優れている
- ・栄養剤などを備蓄している

<災害時個別避難計画書の活用について>

- ・災害時個別避難計画書を作ることから始める
- ・課題がある度に、行政の作業が滞る
→事業所単位で自助努力を図る(個別支援計画を立てる際に一緒に作るとよい)
- ・様式が次第に定着すれば、普及していくのでは
- ・記入例を提示すると導入しやすい
- ・12/20相談部会でもお知らせする

2) 研修会

1/10 小児在宅医療定例研修会は、テーマ「胃瘻栄養におけるミキサー食の有用性と消化管の味覚センサーについて」。講師は東北医科薬科大学の石田雄介教授。

3/5 はリハビリ分野の内容を検討中。

3) ツール検討部門より

<経過> 前回は 3 名の医療的ケア児と支援機関に協力いただきサポートファイルの試験活用を行った経過について報告した。その後の動きとして、連携ツール開発部門では第 3 回検討会を令和元年 10 月 23 日に開催し、サポートファイル試験活用による協力者（当事者・ご家族や各支援者）の意見をもとに、サポートファイル内容の最終的な見直しを行った。本日部会委員より意見をいただき完成とし、どのように活用するのかを決定する。

<サポートファイルの活用方法について>

- ・ 事業所が活用（任意）→見直す点を共有して改訂を重ねる（その際、改訂版を明記する）
改定した場合は在宅医療ケア部会で適宜報告する。
- ・ HP を有する関係機関はサポートファイルを掲載可
- ・ 著作権はない。ファイルの表紙に「制作・編集」を入れる
- ・ お問い合わせ先はそれぞれの事業所が担う。
- ・ ファイルの中の I シート（医療的ケアに関する指示書）は、医療機関によっては文書料がかかるため、 料金に関する注意書きをシート内に明記しておく
- ・ サポートファイル持ち運びは、破れないように穴あきファイルに入れるスタイルがよい。

次回 2 月開催予定